

会 議 録

会議の名称	第12回 本荘由利一市七町合併協議会
開催日時	平成16年 1月 8日(木) 午後 2時00分
開催場所	本荘由利広域交流センター
出席者氏名	「出席者名簿」のとおり
欠席者氏名	尾留川正 委員(由利町)
	<p>1. 開 会</p> <p>2. 会長挨拶</p> <p>3. 会議録署名委員の指名について</p> <p>4. 議 題</p> <p> (協議事項)</p> <p> 協議第34号 新市の名称について(継続協議)</p> <p>5. その他</p> <p>6. 閉 会</p>
会議の経過	別添のとおり

別紙 出席者名簿

会 長 柳 田 弘

委員(40名)

1号委員		2号委員		3号委員	
副会長	佐々木 秀 綱	委 員	齊 藤 好 三	委 員	東海林 京 子
"	佐 藤 清 圓	"	工 藤 兼 雄	"	村 岡 兼 幸
"	加 藤 鈺 一	"	大 場 重 夫	"	茂 木 好 文
"	阿 部 満	"	佐 藤 實	"	鈴 木 清
"	阿 部 幸 悦	"	阿 部 一 雄	"	高 橋 良 一
"	三 浦 孝 郎	"	前 川 侔	"	三 浦 稔
"	佐 藤 源 一	"	村 上 亨		
		"	佐 藤 千 秋	"	木 内 忠 一
		"	成 田 正 雄	"	佐々木 正 男
		"	小 松 敏 博	"	小笠原 良 一
		"	遠 藤 忠 平	"	長谷川 光
		"	小 松 義 嗣	"	金 子 拓 雄
		"	齊 藤 栄 一	"	三 浦 重 夫
		"	鈴 木 澄 夫	"	須 田 妙 子
		"	今 野 義 親	"	松 田 訓
		"	眞 坂 孝 衛	"	高 橋 和 子

4号委員

委 員 石 山 修

幹 事 (16名)

幹事長	鷹 照 賢 隆	幹 事	齋 藤 隆 一
副幹事長	小 松 久 男	幹 事	土 田 隆 男
幹 事	佐 藤 徳 弥	幹 事	早 川 修 一
"	佐々木 登	幹 事	莊 司 和 夫
"	伊 藤 正 弘	幹 事	藤 原 秀 一
"	小笠原 察 雄	幹 事	小 松 慶 悦
"	三 浦 昭 夫	幹 事	加 賀 秀 喜
"	村 上 隆 司	幹 事	佐 藤 善 昭

事 務 局

局 長	佐々木 均	調整第1 班長	佐 藤 俊 一	三 浦 啓 助
副局長	村 上 健 司	調整第2 班長	佐 藤 一 喜	佐 藤 和 広
次 長	熊 谷 正	調整第3 班長	遠 藤 晃	伊 藤 康
次 長	渡 部 進	計画班長	伊 藤 篤	
		電算推進 班長	齋 藤 一 昭	佐 藤 徳 和
		総務班長	三 浦 清 久	

午後2時00分 開 会

○事務局

ご案内の時刻となりましたので、これより第12回本荘由利一市七町合併協議会を開会いたします。会長のあいさつを行います。よろしくお願いします。

○柳田会長

皆さん、あけましておめでとうございます。

委員の皆さんには、すばらしい新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

合併定例会の開会にあたって、一言ごあいさつ申し上げますが、その前に今年は、異常気象でしょうか、雪が何か待ちどろしいような感じさえしましたが、今日ようやく降ってまいりました。

雪の句に、「天上に宴あるやと雪がやまず」、天上も不景気で宴もできないから雪が降らないのかなと思いをめぐらしましたが、今日ようやく降ってまいりました。

天上での景気が良くなったのでしょうか。

そのような中で迎えた今年の干支は、申年であります。

私たち小さいとき、見猿、聞か猿、言わ猿ということ教えられてまいりましたが、この委員会はまさにその逆、見る・聞く・言う協議会でございますので、皆さん方にはどうぞ存分に意見を申し述べていただき、いい合併になれるようにご努力賜りたいと思います。

さて、本日の新市の名称の件でございますが、前回の協議会において、申し上げましたが、正月に委員の皆さんが、多くの住民の方々とお会いし、意見を聞く機会もあるでしょうから、それを踏まえて次の回に継続することで了解をいただいております。

これから、委員各位より意見を頂戴いたしますが、数多くの協議事項がありますが、新市誕生に向かって確実な一歩を重ねてまいりたいと思いますので、よろしくご協力をお願いしましてあいさついたします。

○事務局

ありがとうございました。

それでは、これより協議に入らせていただきます。

会議の議長は合併協議会規約第10条第2項の規定に基づきまして会長があたることになっておりますので、よろしくお願いいたします。

○柳田会長

それでは、議長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

これより議事に入ります。本日の出席委員は40名であります。由利町の尾留川委員より欠席の届け出があります。出席委員は定数に達しております。本協議会に説明のため幹事の出席を求めています。

次第の3、会議録署名委員を指名したいと思います。会議録署名委員は、会議運営規定第8条第2項の規定により西目町の鈴木澄夫委員、鳥海町の高橋和子委員を指名いたします。なお、本日の会議時間は午後4時までの2時間を予定しております。

これより次第4の議題に入ります。

本日の議題は、継続協議中の協議第34号「新市の名称について」の1件であります。

この件につきましては、前々から協議を重ねてまいりましたが、本日は各市町でも様々お話し合いもされたことと思いますので、これから委員の皆様方からご意見を賜りたいと思います。

どうぞ、それぞれの委員の皆様、ご意見を賜りたいと思います。はい、どうぞ。

○三浦副会長(西目町長)

西目町の三浦でございます。新年でございますから、最初に新年のごあいさつを申し上げたいと思います。新年皆さんあけましておめでとうございます。本年も何とぞよろしく願いいたしたいと思っております。

さて、新市の名称のことについてでございますが、前から第一次選定、そして二次選定、それぞれ期間をかけて慎重に審議をまいりました。何とかひとつ結論を出したいものだなと、こう思っておりますが、一次選定、二次選定から、今5点に絞られておるわけでありまして、その5点の中からと、こういうことでございますが、第三次の選定の方法はいろいろあると思っております。お話し合いによることもできるだろうし、そしてまた、投票でもできるだろうというふうに思っておりますが、もう1つ、この5点の中から絞り込むにあたっては、やはり、町長さん方と、さらに議長さん方で、いろいろこれを5点の中から2点なり、あるいは3点に絞り込むということをご一任願えれば、大変そのような方法もあるのではないかなと、こう思っております。

これは、もちろん協議会の委員に取り諮らなければできないわけでありまして、そのような方法も考えたらどうかと、こう思っております、そうしますとだんだんと絞られてくるような感じもいたします。

そうなれば、名称が出てくるのではないかなと、こう思っておりますので参考になるかならないかは別にしまして、今、私の考えを申し上げたので、よろしくお取り計らいをお願いしたいと思います。

○柳田会長

ただいまの西目町長さんのご意見は、この前にこの5つ選定されておるのですが、その中から絞り込みの1つの方法として、3点ぐらいというような感じでありましたが、絞り込みですから様々な方法がなかでの1つの例を出されたわけでありまして。そのほかございませんか。

西目町長さんには、継続審議のものですから今日、決まれば一番良いわけですが、決まらなくとも少しでも前進させることの前提で、提案をされたことかと思っております。

それでは、また矢島の方から意見を伺いましょうか。

○茂木好文委員(矢島町)

矢島町の茂木好文です。

前回のことについてちょっと確認をしたいと思っております。意見ではありません。といいますのは、本荘市の斉藤議長さんから前回、その前もこれに似た発言があったと思っておりますけれども、地方自治法の第3条のことについてです。名称は従来 of 名称を使うというのが原則だというような発言をされております。これは、この法定協議会には、適応のならない分野ではないだろうかというように私は思っておりますけれども、いかがでしょうか。

事務局でも、本人でも結構です。

○柳田会長

いいですか。それでは斉藤さん。

○斉藤好三委員(本荘市)

本荘市の斉藤でございます。どうもあけましておめでとうございます。

今、茂木さんから言われたことに対して、私の考え方を申し上げました。そのことで、そういうふうなのでないんですかと、そういうことは論議があるということで私は申し上げました。ということは、これは皆さんご存じのとおり、今問題になったりしていることもあります。それには、私はここに該当しろとか、何とかと言っているのではないです。だから、そういう意味からして、今の選ぶということは、そういうものの考え方もあるのではないかと。例えば、これは総務省さん何か、もし言っているとすれば、それはいろいろな考え方で、それが正しいとかではないのです。

ただ私の考え方ですから、間違っているかも知れません。総務省さんが、例えばこれが結婚だって、結婚だって言われているんですね、この合併は。対等の結婚だって。

だとすれば、例えば佐藤と斉藤と結婚して田中ではいけないんじゃないか。それはなぜかと言えばその中には文化なり伝統なり歴史があるから、そういうようなことも重んじなさいということだと。その中で選びなさいとそういうことだと思うのです。ですから、今、いろんな学説もあるのでそれがいいか悪いかでなくて、そういうようなことを言われていると。そしてやっぱりその名称の大たる問題において、私の考え方としましては、やっぱりこれはこういう相手の、相手と呼ぶこと、要するに相手を認証するということですから、認証するということはそれは相手を認めるということですね。ですから、その中からやるのか、そういうふうなことの選び方がどうかということで、今はこれある中で地方自治法の中に何かおかしいのではないかと、そんな考え方があるということをおしあげたのです。ですから、既存の名称によるということが、大原則の規程でないかというのが私の考え方でございます。

ただし、この場に及んで、それがここにきた場合を私は誰もこの中に対して選んだのに対して、私個人的にはこうこう言っていないですが、こういう私の考え方を申し上げたということでもあります。以上です。

○柳田会長

はい、どうぞ。

○茂木好文委員(矢島町)

確かに、地方自治法の第3条1項に、編入合併については、従来の名称によるということになっております。ですから、当然この会のスタートから、いろんな従来の名前から、新しい名前から何でもいい、ふさわしい名前を付けましょうよというお話し合いの中で、法律の第何条とかというところまで出してお話をするということは、それを強調しての意見というふうにいわざるを得ないと思います。

編入合併ではないということになりますと、今の斉藤さんの意見としては、もちろんわかりますけれども、法律の第何条というものをい出してお話しということになりますと、この会議にはふさわしくない項目ではないだろうかとは思いますので、事務局のお答えをいただきたいと思っております。

○柳田会長

事務局、指名でございます。

○鷹照幹事長

事務局幹事会の幹事長を務めております本荘市助役の鷹照でございます。

あけましておめでとうございます。

ただいまの矢島町の茂木委員さんのご発言でございますけれども、斉藤委員さんが、今お話ししましたとおり、例えばということであくまでも委員としての、こういうこともあるという例えの話で持ち出したので、決して編入とか対等とかという深い意味での持ち出し方でないと私たちも受けとめております。

茂木委員さんがおっしゃるように確かに対等合併でございますので、編入合併についての話はないものということでございますので、公式的には斉藤委員さんの話はあくまでも個人的なそういう考え方というように、受けとめてもらっていただきたいと思っております。

○柳田会長

斉藤さんいいですか。

幹事長の答えに対して、どうですか。

○齊藤好三委員(本荘町)

私は、助役さんが言ったことでいいですけども、それは例えば茂木さんが言われたこと。これは私前から言って、こんなことどうなのかなと思ってきたことで、今ここに出てきたあと、それがいいとか悪いとかって言ってないです。

ただ、そういう問題の中で対等だと言われればそういうことの論もあるんでないかなと。そして、私もそのようなことが、いろんなことを調べてはみました。私は、学者でも法律学者でもないし、何もそういうことはないですけども、だとすればそういう方が適当でないかなと、そういうふうな適当というか、例えばまずあるところのいろんな調査をしました。そんなときに、そのようなものの考え方はどうだかと。

ただ、今これ様々出ているのがそういうことでして、私がここについてそういうふうなことで適合していると、そういう論の中にもあるということであって、それ以外のことでは私は何もないということであります。

○柳田会長

それでは、茂木さん。

○茂木好文委員(矢島町)

言わんとしていることは十分わかります。わかりますけれども、ただ法律用語の第何条まで出して言いますと、その法律の第3条の1項については、編入合併については従来の名前というようになっています。そうですよね。前回の発言ではそういうことを含めまして、これはあくまでも原則ですよというお話、会議録ですけども、けれども法律用語を出してきて議論をするということになりますと、私はこの会にはふさわしくない項目ではないのかということを行っているんですけども、再度事務局の見解を伺いたいと思います。

○鷹照幹事長

ただいまの件についてお答え申し上げます。

齊藤委員さんがおっしゃられましたことは、事務局といたしましても、大変引用的には少々無理な点があったのではないかなというように受け止めておまして、茂木委員さんのご意見の方に、いろいろとそういうことに関しましては誤解を与えたというようなことで、この場の協議会の事項としては、引用としては不適切であったというような事務局の見解でご理解をお願いしたいと思います。

○柳田会長

いいですか。

○齊藤好三委員(本荘市)

わかりました。不適切だということはわかりましたけれども、私は自分の考え方で述べて不適切だと言われましたけれども、それは幹事会でも検討して不適切だということでもありますので、まず了承します。

ただ、私こういう考え方もあるということだけは、ご理解いただきたいと、こう思ってございます。

○柳田会長

それでは、ほかにないでしょうか。

この新市名称のことについて、茂木さん、また続けてもらっても結構ですが。

由利町さんの方を先にしたいと思いますが、矢島町さんそれでよろしいですか、それでは、由利町さんの方からお願いします。

由利町さんからすれば、絞り込みよりもまた、別なことなど、様々お考えがあると思いますので、その辺をお聞かせいただければ有難いと思います。

○村上 亨委員(由利町)

由利町の村上です。ことしもよろしく願いいたしたいと思います。

まず、先ほどの三浦副会長さんのお話でしたけれども、ともかくは仁賀保3町の名前からのいきさつを考えてみますと、とにかく協議、やっぱり協議を十分に尽くした方がいいのではないかなと思います。

それから、名前の付け方でボタンの、要するに掛け違いというのが出てくる可能性がありますので、その辺は十分に委員の皆さん、勘案して考えるべきではなかろうかと思います。名前につきましては、私個人の意見は前回お話をさせていただいておりますので、省かせていただきたいと思いますが、まずその辺、とにかくもう協議に協議を重ねて議論を尽くすことが一番であろうと、私は思っております。

一応、それで終わりたいと思います。

○柳田会長

一巡してからまた、お伺いしたいと思います。どうぞ次の方へ。

一人代表としてと言わずにどうぞご自由にご意見を。

○遠藤忠平委員(東由利町)

東由利町の遠藤です。皆さん新年あけましておめでとうございます。ことしもよろしく、ひとつお願いをしたいと思います。

まず、いきなり何か私から見ますと議題以外のところから入ったような感じがいたしまして、ちょっと動揺しましたけれども、西目町長さんのご意見、あるいは由利町の議長さんのご意見、いろいろあるわけですが、私の考えとしては、この正月の間、町民の皆さんとの会話をしてきました中では、もういいかげんにそろそろ名前決めたらどうだと。41人も揃って何回同じようなことをやっているんだというようなご叱声をいただいてまいりました。

それで、きょうは何とかして、この名称を決めたいものだなというような思いの中でいっぱいあります。それで、いろいろ決め方あるわけですが、話し合いといっても41人、ピタッとまとまるということは至難の技であります。

おそらく、何年かかってもまとまらないだろうと思います。そこで、私は、前回私どもの副議長も発言をしましたが、2つか3つに絞り込んで、41人でもって絞り込むと。そして、残った名前を新しい市の名前として皆が検証していくと。その方向で行きたいものだなと思っております。どうか、委員の皆さん、私、東由利町ばかりの意見ではないわけでありまして、そろそろ今日あたりは決めようではありませんか。気持ちを一つにして決めましょう。

よろしく願いいたします。私から願いいすることではありませんけれども、以上であります。

○柳田会長

どうもありがとうございます。

次ですが、今皆議長さんばかりの発言だとうまくないんでないかという声もちらっと聞こえましたので、どなたか。

はい、どうぞ。

○松田 訓委員(鳥海町)

鳥海町の松田訓です。あけましておめでとうございます。今年もひとつよろしくお仕えのほどお願い申し上げます。

実は、このことにつきましては、前回もいろいろな議論がありました。私はやはりいきなり町長、議長ですぐ別の部屋でという形は取りたくないものだなと。町長、議長と言えども同じ、私どもと対等の委員でございますので、そこら辺のところも考えまして、やっぱりこの場で徹底討論しながら、どうしてもまとまらないというときの非常手段としてはそういうケースも考えられるのでないかというようにお願いしたいと思います。

それから、いろいろと具体的な市名につきましては差し控えますけれども、この前、それなりに申し上げておりますが、いずれ吸収合併の誤解を受けるような市名にはしたくないというのが、私どものいろんな若い人方も含めたご意見でありました。

そんなことも考えながら、やはりここで十分討論して、そして決まらない場合と。最初、2つか3つという絞り方があるわけでございますけれども、私はその次のステップを考える場合は、やはり2つぐらいに絞るのが適当じゃないかなというご意見を申し上げまして終わりたいと思います。よろしく申し上げます。

○柳田会長

それでは、次に西目町さんの方からお願いしましょうか。

○齊藤栄一委員(西目町)

西目町の齊藤です。これまでのお話というんですか、発表を聞いておりますと、いずれもそれぞれの町でお話し合いをしていないような感じがいたします。

我々は前回の協議会で宿題を預けられたという形の中で、話し合いをいたしました。それで、その内容は、1つは、基本的には話し合いによる決定ということでありまして。しかし多分、東由利町の議長さんが言われましたように、決まらないだろうというようなことで、まず投票により3つに絞ると。その3つの中から1点を絞るということになりまして、それは会長、副会長会、それから議長会、それから議員の代表、そして、民間の代表、4つの分科会をつくると。そうすると、同じ時間で4つの意見が出るわけでありまして。それをまとめたものをこの中でもう一回発表してもらおうと。そういうことで決めたらどうかというような話し合いをいたしました。

この規定の中では、こういう大きい問題は3分の2以上というような枠がはめられておりますけれども、3分の2まで絞り込むというのは、ちょっと大変だと思いますので、何かこの枠を外してもらって過半数で決められるのかなというようなことまで話し合っております。それでも、決定しないならば最終的には投票しかない、記名投票しかないだろうというような話し合いをいたしております。以上です。

○柳田会長

どうもありがとうございました。それでは、大内町さんどなたか。

○小松敏博委員(大内町)

大内町の小松でございます。

今、ここに私ども4人おるわけですが、代表してということで考え方が、このことに限っては1つでございますので、考え方として代表して申し上げたいと思っておりますが、まず5つあります中から3つに絞ると。そして、その残った3つをさらに1つにしていこうと。その段取りについては、西目町さんからも出たようでありますし、その時点でまた考えながら、西目町長さんからは議長、それから町長、市長に任せただけであればということですが、それはやはりうまくないようだということでもあります。

いずれ、委員の中から3つに絞るという、方法としては投票以外にないとなれば、これは投票だろうと思います。

○柳田会長

はい、どうもありがとうございます。岩城町さんどうぞ。

○阿部一雄委員(岩城町)

岩城町の阿部です。

ご指名ならなかったのかもしれませんが、冒頭に大変、会議時間に遅刻をいたしましたことを深くお詫びを申し上げながら、皆さんからお許しをいただきたいと思っております。

議長でない人が発言するようにと、それでもよろしいんですけれども、実はこの件につきまして5日の午後に、議会の全員協議会を開催したという経緯と、この合併協議会の委員、町長を含めて5人で確認をした経緯がございますので、私からご報告をさせていただきたいと思っております。

結論は、やはり合併協議会でとことん議論を尽くすべきだと。その後、いろいろな選択肢に進むべきだと、こういうことでございました。というのは、合併協の重要基本的な確認事項、これは本協議会でも確認されておりますように、その1つは合併の方式であります。新設、対等ということが確認済みであります。

それと、合併の期日は、17年の3月を目途とすると、これも確認済みでございます。そして事務所の位置は本荘市に置く。財産のことも取扱いについては、先般確認されてございます。残っておるのは、新市の名称、今の協議中の議題でございます。これも、もう時間が時間でございますから、結論を出した方がいい、そういうご意見も十分ご理解できますけれども、岩城町の議会の協議会の中では、大変急だったなというようなことがあってよろしいのか。あとで、あれで良かったと言えるのであれば良いけれども、あれがというようなことで、あとに問題が残るようであったら、それでよろしいですか、慎重にやりなさい。慎重にやって下さいよ。最後まで一市七町が新市誕生に向けて結束できるような、そういう慎重な、十分な話し合いをして下さいと。こういうような結論でございました。

ですから、そのほかにも重要な課題があるわけでございますが、一市七町、新しい名称を決めて、17年度の3月に目度く誕生するように。それまでは、粘り強く皆で話し合いで決めていくようにと、こういうことでございましたので、よろしくお願ひしたいと思います。

○柳田会長

はい、どうもありがとうございます。

次に本荘市からどなたか。はい、どうぞ。

○村岡兼幸委員(本荘市)

本荘市の村岡です。私は前回の話し合いの中で、決め方の方法として4つあるというような言い方をいたしました。それについては重なりますので、もう言いませんけれども、今日のお話を聞いて、その4つの中の徹底的に議論をして、そしてこの協議会、41人の全員の責任でもって決定をしていくというのが大きな意見としてあるのではないかなと思っております。本荘市としても、話し合ったときにこの協議会の41人の中で、2回、3回かけてでも決めていこうという、東由利町の遠藤議長さんが言われた案に基本的には賛成をいたします。

それで、徹底的に議論するということは、本当に大切なことではありますけれども、今日は第12回でありますから、それぞれ41人が1年間のいろいろな意味での合併、この名前に限らず、いろんなことでの考えを議論をしながらもってきた上での、今1年間の中での投票ですから、ある程度の期限ももちろん必要だと思っております。それで、名前が決まることによって、また次のステップにも進むことができると思っておりますので、そういう意味で期限というものがあるので、徹底的に議論をす

るだけでは41人がピタッと、これはなかなか決まる話ではないと思いますので、ある意味で2回、3回かけてでも投票して決めるという方法をそろそろ取る時期じゃないかと考えております。そんな中で、前回も言いましたが、この5つの名前は、これは個人的意見かもしれませんが、大きく4つの類型に分かれる。いわゆる本荘市の本荘、由利町であり由利郡である由利、そして由利郡本荘市の由利本荘、それとこれいろいろ考え方があってなので、私の個人的意見ですけれども、鳥海市と鳥海山市は我々の由利、あるいは本荘にとってのシンボルの山であることは間違いないと思います。そういう意味での鳥海という冠を付けた市の名前にしようという4つぐらいの大きな類型だと思っておりますので、一挙に2つということではなくて、もう1つずつステップアップをしながら、皆の意見を絞り込んでいくということで、まず3つぐらいに1つでも絞り込んでいくことに努力をしなければならないのかなと考えております。以上です。

○柳田会長

一通りお伺いしましたけれども、これからさらにご意見を賜りたいと…。
矢島町の議長さん、どうぞ。

○大場重夫委員(矢島町)

ご指名いただきましたので、矢島町の方から一言申し上げたいと思います。

何だか非常にことを急ぐような傾向が強い感じを私なりに受けました。やはり、急がば回れという言葉があるように、やはり私は慎重に永遠に残る名称でございますので、慎重を期してことにあたるべきではなかろうかと思っております。一市七町、それぞれの伝統、それぞれ思いはあるわけですが、ここに絞られたこの時点で我々は、やっぱり深く理解しながら、お互いの信頼に立ってやっぱりことを進めなければ大変なことが、後々問題が生じるのではなかろうかというようなことも心配しております。どの本にも恋愛とか、結婚とかいろいろな表現を使った合併問題を語る人もおられるわけですが、やはり20世紀は見合い結婚だったでしょうが、もう21世紀は恋愛結婚です。そういう流れの中での21世紀の視点に立って、我々がもう少し慎重を期して対応しなければいけないのではなかろうかと思っております。

やはり、せっかく41名の委員がおるわけでございますので、議論を尽くしながら、この新市の名称については対応した方がいいのではなかろうかと、私なりに理解しております。

以上でございます。

○柳田会長

どうもありがとうございます。
鳥海町の議長さん、どうでしょうか。

○今野義親委員(鳥海町)

鳥海町の今野です。どうもおめでとうございます。今年もひとつよろしく願いいたしたいと思っております。

それで、皆さんの意見、今ずっと聞いておりましたけれども、やはり私、今日の中では東由利町の議長さん言われたように、決めるんだったら今回徹底話をして決めた方がいいんじゃないのかと思っております。それで、徹底的に議論をしよう、こう皆さんがおっしゃるんですけども、まずそういう方からどの名前がいいと自分から言い出さない限り、これは議論になりません。そこをひとつ強くお話申し上げたいと思います。以上です。

○柳田会長

それでは、今度、大内町の議長さん。どうぞ。

○成田正雄委員(大内町)

大内町の成田です。

先ほど、私の方から、副議長の小松さんからお話ありましたとおりであります。基本的には、公募の上、20 点に絞り、あるいは今5点に絞り、それからなお1点に絞ろうとしていることですが、それはそれで結構だと思います。

しかし、今、西目町の議長さんからご提案ありました。いわゆる急いではことを仕損じるという言葉がありますので、大変いい案だと思います。時間をかけてじっくりというのは、やっぱり本来の決め方ではないかと思えます。

今回は、この問題についてだけの1日でありますので、本来定例会は、22 日だったんですが、今日は、この問題のみということで。私は、やはり議長とか、町長とか、いわゆる 16 名で決めるものではないというように思っております。

議論は議論で、やはり 41 人ですべきであるし、今決めても差し支えはないでしょうけれども、やはり将来の名称にかかわるものでありますので、慎重に1日、あるいは1カ月かけても何ら無駄になる時間ではないと思えますので、今日は2つでも3つでも選べれば最良の策だと私は思いません。

○柳田会長

はい、ありがとうございました。岩城町の議長さん先ほどご発言あったので、本荘市の議長さんをお願いします。

○齊藤好三委員(本荘市)

齊藤でございます。先ほど発言しましたけれども、また別のことで。この件については、はじめてでございますので、よろしくお願いします。

いろいろお話ございました。冒頭に西目町長さんから3つの方法ぐらいということの中で、お話がございました。しかし、この新市の名称というのは、非常になかなか後世に残ることで、そしてまた急いでだめになったと言えいいですか、そのような自治体も各新聞等に多く報道されてございますけれども、あせらずに先ほど矢島町の議長さんが言われました、急がば回れということもあるし、阿部議長さんも言われましたけれども、慎重にやっぱり。慎重にとってもこの次もう一回 22 日あるわけでございますので、きょうは大体3点ぐらいでもう絞れば、2点というお話もございましたけれども、そういうようなことで、いろんな方法の中でお話しして、絞っていければ話し合いなり何かでも結構でございます。基本的には、それはこの中では3分の2以上というのは、本当は全会一致ということでございますけれども、なかなかそうもまいらないかもわかりませんけれども、そういう中で急がないで私は今日決めて、そういう方向を付けた方がいいと、このように思っております。

以上です。

○柳田会長

先ほどは、議長さん方から多くご発言いただきましたので、今度はこれまで発言されてない方からもお願いしたいと思います。

今度は、本荘市の方から、いいですか。

○工藤兼雄委員(本荘市)

会長から指名されましたので、先ほどから議論する議論すると言いますけれども、どういう議論をするのかなと私はいつも思って皆さん方の話を聞いています。

私は、本荘に住んで 40 年になります。私の出身地は由利町前郷でございます。阿部町長さんと幼な友だちでもございます。親戚でもございます。そういう意味で、矢島に行くと幼な友だち、7

歳までであるところに住んでおりましたから、矢島の方々皆旧知の仲でもございますから、本当にいろんな町内の議員の方々でも、私の患者さんになった方々も何人かおられます。そういう意味では、なかなか腹の中はわかるんですけども、皆さん方が表と裏を出さないということで、やっぱり私は住んだ町が今本荘市に骨をうずめようとして、本荘に来て40年というのは本籍地も移して、親父に本籍まで移さなくてもいいんじゃないかと怒られたんですけども、私はここで骨をうずめるという気持ちでしたんですから、私の考えは皆さん言わずと知れていると、腹の中はわかると思います。ここまで話しますと。

ですから、由利町の話もありましょうけれども、そういうことを出さないで、皆様方議論するといったってうまくないんで、今日は、やはりそういう点では1つを決めようという、何か感情的な部分もあるでしょうし、またいろんな面もありますから、やっぱり3つぐらい今絞り込んで、次回の22日には円満に1つにしたいというような、私はいつもそのように、5人の中でもそういう案を出してきました。よろしくお願ひしたいと思ひます。

○柳田会長

はい、岩城町さん。

○高橋良一委員(岩城町)

岩城町の高橋であります。

今年もまた、よろしくお願ひ申し上げたいと思ひます。

私どもの意見の整理は、先ほど阿部議長さんの方からお話ありましたので、特に、特別な理論はありません。ただ、私申し上げたいのは、平成14年9月に私どもは合併先、相手を選択するについて、本荘市とその周辺の町、秋田市とその周辺の町という選択肢を掲げて、住民投票をやりました。

それで、秋田市を選択した町民が約40%近い投票があったわけです。そういう中で、私どもは本荘市とその周辺の町との合併は、対等合併で新設であるということを経済理由にしまして、こちらとの合併を選択したという経過がございます。

ですから、今、新しい市の名前が5点ほどに集約されてまいりましたが、先ほどどなたかの発言の中で、鳥海町さんからですか、やっぱり吸収合併であるかのごとき印象を残すような名称は避けるべきだという…。

鳥海町の方からあったように私も同感をしております。それで、今ひとつこの協議会が開催されて、第5回でしたか6月の定例会下で新市の名称の選択を、選び方をどうするという場面が出て、何回か会を重ねて、今日の5つの候補に集約されてきたわけでありまして、それで、その中で、私ども確認したのはやはり第二次選定によって選定された作品について、町議会委員の全員で協議をして決めたいという確認をしてあると思うのです。ですから、こういうことを考えますと、私はやっぱり時間がかかっても議論を尽くして市名を絞り込む作業をいとわないで、積極的に取り組まなければならないのではないかと、それがいわゆる少数の市民の意見に答える説明をする義務でもあろうというように思っているところです。よろしくお願ひ申し上げます。

○柳田会長

はい、ありがとうございます。次に、大内町さんの方から。

○佐々木正男委員(大内町)

皆さんおめでとうございます。大内町の佐々木でございます。

私どものこの議題についての考えは、今小松委員の方から申し上げましたとおりでございます。茂木さんからも前出ておりましたけれども、この議題につきましては最終的にこの協議の中で、協議の上決めるということになっておりますけれども、協議の中で決めるのに非常に問題が

出た場合、それからなかなかまとまらない場合は、いろんな方法論を協議して決めると、こういうように私どもは理解をしております、一応この5つの名前につきましては、先ほど本荘市の村岡委員からもお話ありましたとおり、私どもがこの地域に対する熱情あふれる、その気持ちが大体集約されているのではないかと考えております。そういう意味で、私ども大内町は対等合併であるということが、私ども町民の皆さん一丸としてそういう気持ちでございます。ただ、例えば由利市、本荘市のように、既存の名前が付こうと、私どもは対等合併であるという中で、これから出発しようという、そういう気概の中で住民説明会の中でもいろんな意見を賜っております。

そういう意味で、やはり議論をする、この例えば本荘市についての議論を展開する。あるいは由利市に対してのこの名前がいいということを議論する、そういう主張で果たして最後まとまれるのかなといった場合には、やはりこの協議会の中で何というかどうもその方法論をもう少し探した方がいいのではないかなという結果になった場合は、やはり投票ということが1つの選択肢であろうと考えております。

大内町は、例えば鳥海山市なってもこの会で決められたことにつきましては、私どもも町民の皆さんにはこうなりましたと胸を張ってお話する覚悟でございます。そういう意味で、今までいろいろ議論した中では、大体私の思いはどれをとっても、ひとつ一緒にまとまっていける市の名前にふさわしいのではないかなということでございまして、やはり、今日は3つぐらいに絞っていただくと。その中で、この次はもう1つに絞って、それで皆納得しようと、そういうひとつの心構えをここで決めていただいて、次の会に臨むべきではないかなと考えております。

大内町は対等合併でありますけれども、名前についてはこの中の5つから選ばれたものに対しては、何ら異論を唱えないという形で私どもは認識しております。

以上でございます。

○柳田会長

ありがとうございました。今度、西目町のどなたでしょうか。

○鈴木澄夫委員(西目町)

西目町の鈴木でございます。

本年もどうぞひとつよろしく願いいたします。

先ほど、私どもの議長が言ったとおりに西目町では話し合いを徹底的にやると。そしてまた3点を選ぶんだと。それで、その中からまた決まらない場合は選定のために審議をしていくというようなことをおっしゃられております。

それで、そういうことから今日は1つ一般の方々の代表者もそれぞれ、その地域の代表者でございますので、町長さん方は町長さん方、議長さん方は議長さん方、それから副議長さんは副議長さん方、で一般の方というようにして、4班ぐらいに分かれまして、要するにこの十分な話し合いを出して、その中から、また3点ぐらい絞り込んでいけたら、一歩前進ではないのかなと思います。以上です。

○柳田会長

ありがとうございます。次に鳥海町さん。

○眞坂孝衛委員(鳥海町)

鳥海町の眞坂と申します。今年もよろしくお願い申し上げます。

今まで皆さんのご意見を伺っております、それぞれもっともだなというように自負しているところではありますが、やはり、新しい市の名前をこの中から1つ選ぶわけでありまして、やっぱり私どもも、どうしても既存の名前に市を付けたという形にいきますと、どうしても心の中で吸収された

ような感じが大きいというようなことから、できればこの3番、4番の中から決めていただければありがたいなと思っております。以上です。

○柳田会長

今度は、東由利町さん。

○長谷山 光委員(東由利町)

東由利町の長谷山ですけれども、今回、ちょうど正月に入りましたのでいろんな方とお話して参りました。その中で、きのうも新年会がありまして、地域の新年会でしたけれどもこの名前の問題も出ました。その中で、本荘市に対しては何ら異論はないということですが、対等合併であるならば、1つのスタート台に立ちたいというような考えもたくさんありました。

そういう中身ですので、大体想像つくのかなと思っておりますけれども、やはり由利郡というのも大変大事にしていきたいなと、そういうような声も大分聞かれましたので、私はその方向で進みたいなと思っております。以上です。

○柳田会長

はい、どうもありがとうございました。由利町さん。

○木内忠一委員(由利町)

木内です。今年もよろしくひとつお願いいたします。

私は、住民に公募する際に、この協議会でやはり既存の市町名は用いないというように、当初からお話しておいた委員の皆さんもおりました。ですが、公募する際には、皆さんが意見一致の中で、旧市町名も当然地域住民の皆さんから意見を頂戴しようということで含めました。私は、それで今回この正月休みにいろいろと旧市町名を含めたこと。あるいは外すという考え方、2つの考えがありますが、もし新市の名称を今回十分協議するとすれば、その部分を徹底してやっぱり協議するべきでないかと。旧市町名を使うことが本当に対等合併ではなくて、あるいは吸収合併なのかどうかですね。

私は、このあと新しい市ができた場合、旧市町名のこれまでのネームバリュー、あるいは培ってきた対外的な知名度、あるいは経済的な効果、そういったことを考えると、新しい理念に基づいて、新しい新市の名称をつかってこれから一から頑張るということも非常に大切だと思いますし、いいと思うのですが、これまで旧町村の合併以降、私の考え方としては2つのことを話し合うというのは、そうした私自身は今まで培ってきたものの上に、新しい市の合併があるわけですので、当然加えて、協議をすべきだと。

あとは、先ほど大内町さんの意見もありましたその協議の中で、本当に新しい理念に基づき、あるいは考え方に基づいて、新市の名称を選んでいる地区もたくさん秋田県内にもあります。世界的に名を売った市であっても、新しい名称を付けた市もあります。ですが、私は、その地区とはまた別の考え方で私自身は旧市町名も含めて、やっぱり選択すべきだという考えをしております。以上です。

○柳田会長

はい、どうもありがとうございました。矢島町の方からどなたか。

○佐藤 實委員(矢島町)

矢島町の佐藤でございます。ことしもよろしくお願い致します。

私は、遅出でございますので、皆さんの話を聞かせていただいておりますけれども、この名称、やはりいろいろ新聞等を見ておきますと、名称についての報道が一番大きく出されているの

かなと。ここにもマスコミがいると思いますけれども、そうしたことはやはりその地域の住民の皆さんの一番関心のあるのがこの名称なのかなということで、財政とか、いろいろなものについて、あまり新聞の方も書かないのかわかりませんが、さっきの会長のごあいさつの中に、新年いろいろな方との会合があってという、そうしたことを踏まえてということがありました。地域の皆さんの声を集約いたしますと、先般、一昨日ですか、消防の出初式がございまして、若い人なり、それから部落の担当者を交えた直会があったんですけども、やはり今県内で、合併が大分進んできておるところの名称については、既存の名称を使われているところはほとんどないという、こと3町、五城目3町のところも既存の名前は使わないということで、5日の日から募集ははじめたというようなことを見ていきますと、やはり皆さんから抽象的になかなか名前が絞り、絞り込むという気持ちの言葉はありますけれども、この5つの中から絞り込むような話しづけがなかったのも、先ほど鳥海町さんの方から何か2つぐらいというような話、具体的に出てきたわけでありまして。

私は、この名前というものは、やはりその地域地域の歴史と、思いというものがあるわけですので、単純にその町に今名前が付いているというものではないと思います。また数百年という歴史を抱えながらの流れでございまして、家庭にしても同じ、父親の名前の1つを取ったり、屋号の名前を取ったりということで、非常にこの名前については、その流れの中で重んじた名前が付けれられているわけですね。私の方もそうした家系が、父親の一文字を取って名前を付けるとかというのがあるわけですね。

ですから、単一的に既存の名前になったり、また吸収合併という言葉は嫌だという言葉、私の方の住民の皆さんもですけども、この吸収合併というのは名前だけではないと思います、私は。

ですから、やはり私が来る前ですので、決まっておりますけれども、庁舎は本荘市に建てるといようなことが決まっているので、このものは当分は建てないということでしょうけれども、これは合併すればすぐ建てての方に動いていくわけですね、これはほかの先進を見ているとすぐわかるわけですね。

やはりそうしたものが一連になっていくと、吸収合併という言葉が生まれてくるわけですね、これは庁舎は地図から見て中心の由利町あたりにでも建てるといことであれば、また話が全然違ってくると思いますけれども、こうした環境の中で本荘市がほとんどそうした構造物なりは本荘市に集約するだろうと思いますので、そこにまた同じ本荘市がいきますと、どうしても地域から見ますと吸収合併になってしまうという格好が出てくるわけでありまして。

やはり私は県内のそうした今の状況を見ていると、既存の名前のところはほとんど出てこないような状況ですので、やはりその思いというもの、そして地域住民に理解を得る、そしてこのものが決まりますとことしの6月定例会で各町の議会で承認を得なければ、調印はできないという決まりがあるようですので、ここで投票とか何とかって見えないところの投票で決めていっても、今度地元での説得力に欠けると大変なことにまた、ある町のようになっていくわけですね。

私は、その投票も大変大切だろうとは思いますが、少しずつこうした気持ちが皆さんの中から出てきた中で集約できるのではないのかなというふうにご考えておきまして、私もここに4人おられる内の2人目で発言しているんですけども、会長さん、副会長さんも同じ会議委員ですので、これは会長さんや副会長さんの方からもご意見があれば出していただいて、このことについては、今日決まりますと、あした早速マスコミの方で発表すると思っておりますし、そのあとにまた振り出しというふうにもいかないと思っております。

十分皆さんのご意見、100%聞きながら私は進めるべきでないのかなと思うので、地域の住民の出初めのときのお話ですと、やはり吸収合併的なそうした中身には絶対ならないようお願いしたいという皆さんの声でしたので、私の方からご報告しておきたいと思っております。以上です。

○柳田会長

ちょうど1時間になりましたので、暫時休憩を取りたいと思っておりますが。

その前に今、ご発言された…。

はい、どうぞ。

○遠藤忠平委員(東由利町)

最初にご意見を申し上げてから議長さんも1時間になったということでもあります。1時間になりましてけれども、会議は全然進展をしていないというように思います。今日の議題は新しい名称を決めることでもあります。吸収合併になるのではないかと。対等なはずなのにと。考えてみると、これまで決まった、決定されていることをまた盛り返してこの名称を決める材料に持って来ようとしておるような感じがします。

これまで、私ども41人は町を背負って、代表して、この名前を5つに絞り込んだわけでありまして。ですから、議長さんは、会長さんは、この会議を主催しているわけですから、この議題に沿ってひとつ進行していただきたいことをお願い申し上げますが、まずその徹底議論と、今日3つなら3つ絞るという意見が2通りあるわけでありまして。ですから、この徹底議論なら徹底議論、5つの今まで決まった名称5つの中を徹底議論する。どうやって議論するのか。それとも、今私ども、私も申し上げておるとおり、今日はいろんな方法を使って名前を決めましょうよというような方向に持って行くのか。決めるのか、決めないのか、そこのあたりをはっきりして会議を進めない、今日もまただめです。22日もまたそのとおりでと思いますよ。吸収だの対等だの名前によって、そういう感覚を持っていますか。私ども、この5つ絞るときにそんな考えを持って投票した覚えはないですよ。

会長さんどうか議題に沿った会議を進めていただいて、今日は最初に申し上げましたように名前を決めていただきたいことを希望します。

○柳田会長

はい、ありがとうございます。はい、佐藤さん。

○佐藤 實委員(矢島町)

ただいまのご発言がありまして、大変突っ込んだご意見だとは思いますがけれども、発言の言葉の中に盛り返すとかという言葉はまかりならんというお話で、先に進もうとしているんですけども、私は会議というものはあらゆる面から言葉を言い尽くして、その終結だと思っております。その地域によって、会議の持ち方は別だとは思いますがけれども、今日これまで発言されたのは、大体一人一言ぐらいだと思っておりますけれども、言う人は何回も言うなんていうことでなくて、やっぱりここでまだ発言しておらない人が半分いるわけですので、そして最終的には副会長さんからもご意見を聞いて、昔決まったことを盛り返すのではなくて、それは言葉の中で使われない言葉ではないと思っておりますので、会議というのはそうした過去をたどりながら未来を開くということだと思っておりますので、そこで何といえますか、発言を打ちとめるような私は議案の進め方はちょっとまずいのではないのかなと思っておりますので、意見を付け加えます。

○柳田会長

はい、ありがとうございます。

○佐々木副会長(大内町)

大内町の佐々木でございます。今年もよろしくお願い申し上げたいと思います。

各市なり、町の方から各委員の皆さん方がいろいろと年末年始にあたって、いろんなご意見を聞きながら、そのものを発表され、そしてまた自分の考え方も入れてのご意見ということで受けておったところでございます。

ところで、きょう午前中でございますけれども、一市七町の首長の会議を開いたところでございます。そのときにこの継続審議の新市の名称決定について、どう進むんだろうなということであり

ました。そこで、今日決定するべきでないかと。いつまでもこのことについて、論議をすることは決して地域住民の皆さん方にとっては良くない印象を受けるよということと言われた方もありました。

また、一方ではやはり大変大事なことでございますので、去年の暮れのこの協議会でも私は名は体をあらわすというようなことも申し上げながら、やはり一番大事な、それこそ決定事項だと。そのために時間を十分取りながらということをお願いしたところでございますが、そういうことで、いろいろな意見がありましたけれども、今矢島町の佐藤さんの方から副会長の意見なども言ったらどうかという発言もありましたので、そういう意味からして発言をするわけでございますけれども、きょうは午前中の会議の中では、それこそ今日、決めなければいけないということでもないし、41名の委員の皆さん方が十分な協議をしながらこれは決定しなければいけない大変大事なことでございますので、まず5つ今選ばれておりますので、その中から3つほどに絞り込んでどうか、より良い3つを選びながら、そしてその後の絞り込みについては、また協議の中で話し合いをしようではないかなというような話をされたところでございますので、各委員の皆さん方から2つという方、あるいはまた3つという方、そして方法については当然、その旧市の名前がどうか、あるいは新しい名前をとというようなこともあるわけでございますので、各委員の皆さん方は思い思いあるわけでございます。

なかなか3つに絞り込むといたしましても、なかなか意見として出すということは大変な難しさがあるんじゃないかというようにも思われますので、私としましては、3つに絞り込み、そしてまた、その方法としましては投票で、決定じゃありませんので、新しい新市の名称決定じゃありませんので、3つに絞り込むための投票というようなことで話をしたところでございますので、副会長方としての意見を申し上げたところでございます。

○柳田会長

様々ご意見ございました。

私の方からも意見を申し上げたいと思いますが、8人いればそれぞれ言葉のニュアンスによって、また反対にそれぞれ聞き取り方によっては微妙に差異を生ずることがあります。したがって、昔は聞かない・言わない・見ない現代の申は、よく聞き・よく言う・よく見ることと思います。

それで、皆さん方からご意見をいただいたわけです。この新市の名称公募をする際に、今ある市町の名前を使わないという意見もありました。

しかし、いい市町の名前であればこだわらないと確認をいただいて、スタートしているわけでありますから、それで今ここで、対等合併だから新設合併であるから今ある町の名前を使うべきでないということになると、今までやった協議が全部元に戻るということになりますのでこれまでの経緯を充分尊重して、いただきたいものと思います。

公募された名称は、5、211、それから絞られてきたのはこの5点です。それでこの5点の中から絞っていただきたいと思います。

この絞り込みのことについては、各委員から慎重にとか、ボタンの掛け違いはいけないとか。ここでまとまらなければ別の日でもいいとか、様々な意見も出ましたが、大まかに申し上げますと、2点ないし3点に絞ったらどうかというのが大方の意見だと受け取りました。

それでは、この絞り込むことについては、いいですね。

絞り込むことにして、1点で絞るとすればこれは決定です。また、2つに絞り込む、3つに絞り込む案もあります。今は4つに絞り込むという話は全然出ませんでしたので、絞り込むにしてもまず3点ということに集約されると思います。

それでは、絞り込む方法ですが、投票によって絞り込みということと、西目町さんのように3点になったあとで、分科会で一回議論をする。今度絞り込む方法について、投票でというご意見もありました。

話し合いによって絞り込む、投票によって絞り込む、あるいは小委員会のようなものをつくって絞り込むと方法がそれぞれありますが、3点に絞り込むという大方の意見のように受け取れましたので、今日は3点に絞り込むということで集約したいと思います。

それでは暫時休憩します。休憩は3時30分までとします。

午後 3時15分 休憩

午後 3時33分 再開

○柳田会長

会議を再開します。

先ほど委員の大方の意見が3つに絞り込むということでございました。

絞り込む方法について、皆さん方にお諮りをいたします。

はい、由利町の村上さん。

○村上 亨委員(由利町)

村上です。絞り込むのは結構なんです、大きく分けまして本荘市という名前なのか、それ以外なのかということが、まず全体の話の流れとしてそのように感じます。それで、本荘市ということの要するに強調する意味合いというものをここで皆さんで、本荘市を強調するように本荘市の方は思うのでしょうかけれども、話していただければと思います。

それから、先ほど由利市の由利、これは由利町の由利でもやっぱりありませんし、由利郡の由利、あるいは780年、続日本記に出てくる由理柵の由利だと思えます。

鳥海市は、13世紀に由利仲八郎政春が鳥海弥三郎さんに、私ども敗退したという歴史もありますし、昔からのきわめて由緒ある名前だと思えます。ただ、本荘市に関しては本荘さんが1603年にできてからの400年の歴史ということで、去年でしたか入部も行われましたし、それぞれ歴史があって、ただその歴史歴史と言われてもまたそれを吟味する、あるいは全く関係なくやるのかというようなこともあると思いますので、ただ本荘市にこだわってしまえば、せっかく一市七町がまとまろうとしているのに、そのところをやはりきちっと考えていただかなければならないのではないかなと思います。今、絞って3つなら3つと絞ってもかまいませんけれども、本荘市さんが本荘市ということを強調するその論拠というか、それをひとつ。

○柳田会長

はい、どうぞ。まず岩城町の加藤町長さん。

○加藤副会長(岩城町)

岩城町の加藤でございます。よろしくお願いたします。

今、村上さんからお話あったようなこと、これはまずいろんな背景、歴史的な背景とか、様々それは新市名称に選ぶに及んでいろんな議論はしてきたわけですが、今この5つというのは、もう既存のこの中から選ぶということはもう決まっているわけですから、その歴史的な背景とか何とかがというのは問題外だと私は思います。

それで、今先ほど会長さんからご提案あった、皆さんも大体3つぐらいに今日は絞るべきだ、これは町長、市町長の会議でも3つぐらいに絞るべきだという先ほど佐々木町長さんからもお話があったように、大体合意されたと思えます。ですから、絞り方について先ほど投票という言葉ございましたし、あるいは小委員会という話もありましたが、私このことについて提案したいわけですが、まずこの点については、投票で皆が参加をすると。しかも3つに絞るということですから、やは

り一人が3点を選ぶと、こういうことでその、結局ですね、最終的に集計しますと上位から3点だけが残ると、そういうことでやられたらいかがでしょうか。ご提案を申し上げます。

○柳田会長

賛成の声もあるし、声ない声もありますので、もう一回確かめます。

絞り方について、まず今の話は投票をするかしないかという問題1つと。それから投票する場合に、1点にするか2点にするか、一人で3つにするかというのもあるわけなんですよね。それで、まずその方法についてどなたかひとつご発言下さい。

3点だけれども、投票するかしないかは私まだ確認しておりませんので、そこを確認したいと思います。

○柳田会長

投票するというのは、まだ皆さん方からの意見を聞いてないから、それで今伺いたいと。投票でいいですか。

【「はい」と呼ぶ者あり】

○柳田会長

いいですね。各町から今度一人ずつ代表でいいですね。

はい、それじゃあそういうことで。

それから今度もう1つ。2つ目は、投票するにあたっては無記名、名前を出した方がいいのか、投票する人の名前を出した方がいいのか無記名がいいのか。それはどっちの方ですか。

【「無記名」と呼ぶ者あり】

○柳田会長

無記名ですか。衆議院議員の場合は記名のようなので、ここも格調高く記名と思ったけれども、無記名ということでよろしいですね。

それから、3つに絞り込むということでもあります。加藤町長さんから一人で3つ記名する案。それから、もう1つは3つに絞るにしても何も一番好きな名前というのはあるだろうと、だから1つでいいんじゃないかという案もあるわけですが、皆さんはどちらがいいか、お諮りいたします。3点がいい方は…。(挙手確認)

3点が多いようですので、それでは3点ということですね、もう1回それでは1点でいい方、確認する意味で。1点は少ないですね。それでは投票ということで無記名、そして3点を選ぶということでいいですか。

それでは、同じ名前を3つ書いたらそれは失格じゃなくてやっぱり1点としますね、AならAという名前を3つ書いたとしても1点ということですよ。

決め方ですから。例えば3つ書くのに1つしか書かなかったと、そうした場合には無効かといった場合にそれは1点でしょう。

それからこの5つの中から選ぶのであって、それ以外の名称は無効となります。

○柳田会長

それでは、投票用紙を配布いたします。投票は無記名、そして市の名前は3つと。投票終了後、すぐ開票し投票数を含めて発表いたします。

【事務局投票用紙配布】

○事務局

それでは、再度確認いたしたいと思います。

委員の皆様のお手元に投票用紙配布されておりますが、3つ欄がございます。それでいいと思う名前、3つ以内で書いて下さい。先ほどの話の中にありましたように、5つの中から選ばれてないものは無効となります。それから、同じ名前が2つ以上書かれた場合は1点となります。また、1つしか名前を書かない場合、2つしか名前を書かない場合、それは有効となります。その点、ご確認いただきたいと思います。

○柳田会長

配布漏れはありませんでしたね。再確認いたします。

これより投票を行います。投票箱が空であることを確認いたします。

【事務局投票箱確認】

○柳田会長

それから、先ほど事務局からの説明ありました件について了解しましたね。それでは、事務局の点呼に基づき投票を行って下さい。

【事務局点呼により投票】

○柳田会長

投票漏れありませんか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

○柳田会長

投票漏れないようでありますので、ただいまより開票を行います。開票立会人を3名指名いたしたいと存じますが、本席より指名してご異議ございませんか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

○柳田会長

ご異議なしと認めます。よって、開票立会人につきましては、第10回の投票のときと同様に、東由利町の長谷山 光委員、西目町の須田妙子委員、鳥海町の高橋和子委員の3名を指名いたします。開票立会人はステージにご参集願います。

【開票】

○柳田会長

それではお待たせしました。開票の結果を事務局より発表いたします。

○事務局

それでは開票結果を発表いたしたいと思います。本日の出席委員は40名であります。

投票者数は40票、出席委員と合致しております。一人3票ですので、3倍の120票が投票総数となります。有効投票が91票、無効投票は29票です。29票の無効投票のうち28票が白票となっております。

有効投票中、由利本荘市 32 票、本荘市 19 票、鳥海山市 15 票、由利市 14 票、鳥海市 11 票、合わせまして 91 票となります。よって、由利本荘市、本荘市、鳥海山市までが上位3点となりました。以上です。

○柳田会長

今、事務局の発表で3点ということで、由利本荘市 32、本荘市 19、鳥海山市 15、この上位3点であります。ということで、投票の結果、この上位3市が3位まで、由利本荘市、本荘市、鳥海山市と決まりました。それで、これから1つに絞り込むわけではありますが、今日は、慎重にというご意見もございましたので、22 日協議会がございましたのでそのとき決定する方向で進みたいと思います。ご異議ございませんか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

○柳田会長

ご異議ないようでございますので、そのようにしたいと思います。

これをもちまして、本日の協議事項はすべて終了しました。

この際、お諮りいたします。今協議会において協議されました案件等において、その字句、条項、数字、その他文案等の整理を要するものにつきましては、その整理を会長に委任されたいと思います。これにご異議ございませんか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

○柳田会長

ご異議なしと認めます。そのように決定いたします。

以上をもって協議を終了いたします。

次第の5は事務局より説明、日程。

○事務局

次に、次回の第 13 回協議会の開催日でございますが、先ほどからお話がありましたように1月 22 日、第4木曜日ですが、午後1時 30 分より、ここ本荘由利広域交流センターで開催したいと思います。

以上をもちまして終わりになりますが、委員の皆様方はしばらくお席でお待ちいただきたいと思います。お車でおいでの傍聴者の皆様に駐車場から出られるとき、非常に混み合いますので譲り合いまして、事故のないように、また国道に出る場合は指導隊員がいらっしゃいますので、指導隊の指示に従って下さいますようお願いいたします。

以上をもって終わります。

午後4時20分 閉 会